

法人化により農地を集約
規模のメリットを生かして
有機栽培米を増産



ファームくだわの取組

「ファームくだわ」は、1989年に立ち上げた久田和営農組合が前身となり、和田山町の久田和を含む東河地区全体の集落営農組織を集約して農地面積を拡大。2012年に朝来市初の農事組合法人として設立しました。久田和営農組合時代の2009年度から水稻と黒大豆において減農薬・無化学肥料栽培に取り組み、「コウノトリ育む農法」による環境保全型農業は経営面積全体の約3割に達しています。2024年に朝来市が発表したオーガニックビレッジ宣言では、有機農業の面積を拡大し、学校給食の米すべてを「コウノトリが育む無農薬米」に切り替えていくことを表明。ファームくだわにおいても、現在約6.3haの有機栽培米の取り扱い面積を増やしていく予定です。

また、近年の輸入畜産飼料の高騰を受けて飼料用稲の栽培にも力を入れています。稲全体を刈り取ってロール状に成型した稲WCS(稲発酵粗飼料)を約13haの規模で生産。地域の畜産農家へ供給し、畜産農家から提供された牛ふんを粃殻と混ぜて発酵させた堆肥をほ場に利用しています。

農事組合法人を構成する組合員農家の高齢化が進む中、大型機械の導入や空き家を寮として活用するなど、若手が活躍できる環境を整えて新規就農者の受け入れを積極的に行っています。



稲WCS調整の様子

代表メッセージ

ファームくだわ 代表理事 清田正巳さん

有機農業は手間がかかりますが、そこに取り組むことで付加価値を高め、収益を上げることを目指しています。朝来市の農業を持続可能なものにするためにも、コシヒカリの有機栽培を広げていく予定です。地域の高齢化が進み、当法人の経営面積は今後50ha程度まで広がっていく見込みです。それに伴い大型トラクターなど農業機械の操作に必要な免許や資

格も積極的に取得してもらっています。

私たちは、コウノトリが久田和にある巣塔で雛をかえしたように、農業を担う次世代の人材を育てていきたいと考えています。来年度は和田山町に移住する20代の新規就農者を受け入れます。自然環境の保全に努めながら、大規模な農地で本格的に米作りに挑戦したい人を歓迎します。



働く先輩のインタビュー



ファームくだわ 副理事
稲津大佑さん(2016年入社)

豊岡で砲職人として働いていましたが、30代になって家族が増えたことを機に、一緒に過ごす時間を充実させたいと思い、ふるさとの久田和で就農することを決めました。農事組合法人として、多くの組合員農家のほ場を守り、作物を育てていく責任とやりがいを感じています。機械好きなので、大型農機具やドローンなどの新技術にも楽しみながら率先して取り組んでいます。



【法人概要】

- 所在地／朝来市和田山町久田和658-2
- 設立／2012年7月
- 従業員数／正社員2人 パート3人
- TEL／079-670-2817
- Mail／farmkudawa@gmail.com

<受け入れについて>

2週間程度のインターンシップ研修が可能です。詳細は問い合わせを。

経営内容・品目

- 経営面積／42ha、うち有機6.3ha(水稻)
- 栽培品目／水稻27ha(コシヒカリ、あきだわら、マンゲツモチ)、飼料用稲13ha、黒大豆・黒枝豆30a、岩津ネギ36a